

# 平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月9日

上場会社名 株式会社 ガーラ

上場取引所 東

コード番号 4777 URL <http://www.gala.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役グループCEO (氏名) 菊川 暁

問合せ先責任者 (役職名) グループ戦略部 部長 (氏名) ジョーシ ガブリエレ TEL 03-5778-0321

四半期報告書提出予定日 平成30年11月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	448	45.5	135		124		123	
30年3月期第2四半期	307	1.8	166		167		173	

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 136百万円 ( %) 30年3月期第2四半期 178百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	7.51	
30年3月期第2四半期	10.96	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	929	330	33.9	19.08
30年3月期	773	204	26.0	12.67

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 315百万円 30年3月期 201百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		0.00	0.00
31年3月期					
31年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、【添付資料】P.3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	16,513,800 株	30年3月期	15,880,800 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	株	30年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	16,472,291 株	30年3月期2Q	15,854,800 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料については、決算発表後に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報) .....	10
3. その他 .....	10
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）の当第2四半期連結累計期間における経営成績の概況は、連結売上高448,070千円（前年同四半期比45.5%増）となり、大幅な増収となりました。

これは、スマートフォンアプリ事業の売上高が前年同四半期と比較して大幅に増加したことによります。

販売費及び一般管理費につきましては、前年同四半期と比較してマーケティング活動費用が増加したことから、増加となりました。

これらの結果、営業損失135,588千円（前年同四半期営業損失166,574千円）、経常損失124,654千円（前年同四半期経常損失167,319千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失123,665千円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失173,718千円）となりました。

セグメントごとの経営成績の概況は、次のとおりであります。

## ① 日本

日本セグメントでは、連結子会社Gala Lab Corp.が開発したスマートフォンゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」日本語版について、開発及び運営業務の効率化を図るため、連結子会社Gala Lab Corp.がグローバルサービスを開始し、平成30年5月にパブリッシャーが連結子会社㈱ガーラジャパンから連結子会社Gala Lab Corp.に変更になりました。そのため、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」日本語版の売上が韓国セグメントで計上されることになったことから日本セグメントの売上が減少いたしました。また、平成28年5月からダウンロード配信を行っている「Arcane（アーケイン）」の売上が減少したため、前年同四半期と比較して売上高（内部取引を含む）が減少いたしました。

費用面では、「Arcane（アーケイン）」に係るマーケティング活動費用が、前年同四半期と比較して減少しているため、販売費及び一般管理費が減少いたしました。

これらの結果、日本セグメントにおける売上高は39,099千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で102,252千円（72.3%）の減少となり、セグメント損失が99,950千円（前年同四半期は86,483千円の損失）となりました。

なお、韓国のゲーム開発会社Fox Games Co.,Ltdが開発したスマートフォンゲームアプリ「FOX-Flame Of Xenocide-（フォックス）」の日本でのサービス提供に関し、連結子会社㈱ガーラジャパンは、平成30年5月にライセンス契約を締結し、日本語版の配信に向けて準備を行っております。日本でのダウンロード配信に先立ち、平成30年10月に事前登録受付及び事前登録キャンペーンを開始致しました。

## ② 韓国

韓国セグメントでは、スマートフォンアプリ事業において、連結子会社Gala Lab Corp.が開発したスマートフォンゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」について、平成29年1月の韓国語版のサービス提供開始以来、当社の強みであるグローバルなネットワークを活かした多言語展開による配信を進めております。また、平成30年5月に開発及び運営業務の効率化を図るため、一部の地域を除き、連結子会社Gala Lab Corp.が「Flyff Legacy（フリフレガシー）」のグローバルサービスを開始し、売上高が増加いたしました。

また、平成29年12月に連結子会社Gala Mix Inc.が開発した歩数計アプリ「Winwalk（ウィンウォーク）」について、グローバルなネットワークを活かした多言語展開による配信を進めており、平成30年9月にドイツ・イタリア・アイルランド・スペインの各地域において英語版の配信を開始いたしました。

さらに、平成30年9月に連結子会社Gala Connect Inc.が開発したスマートフォンゲームアプリ「SpinClash（スピクラッシュ）」について、アメリカ・カナダ・フィリピンの各地域において英語版の配信を開始いたしました。

一方、オンラインゲーム事業では、連結子会社Gala Lab Corp.の主力ゲーム「Rappelz（ラペルズ）」及び「Flyff Online（フリフオンライン）」において、ユーザーへのアイテム販売減少により売上高が減少いたしました。

費用面では、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」に係るマーケティング活動費用が、前年同四半期と比較して増加しているため、販売費及び一般管理費が増加いたしました。

これらの結果、韓国セグメントの売上高は441,455千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で225,453千円（104.4%）の増収となり、セグメント損失が35,531千円（前年同四半期は77,452千円の損失）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて126,132千円増加し、330,493千円となりました。

主な増減は、資産では、現金及び預金が57,350千円、前渡金が14,000千円、ソフトウェア仮勘定が74,457千円、権利金が12,228千円増加いたしました。負債では、退職給付に係る負債が16,521千円、長期預り保証金が21,506千円増加いたしました。純資産では、資本金が125,017千円、資本剰余金が121,776千円増加した一方で、利益剰余金が123,665千円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただいております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	154,646	211,996
売掛金	74,328	73,940
前渡金	—	14,000
前払費用	17,434	10,783
その他	3,649	2,859
貸倒引当金	△167	△141
流動資産合計	249,891	313,438
固定資産		
有形固定資産	6,990	6,182
無形固定資産		
ソフトウェア	29	—
ソフトウェア仮勘定	231,729	306,186
権利金	—	12,228
その他	3,699	3,171
無形固定資産合計	235,458	321,585
投資その他の資産		
投資有価証券	580	939
長期貸付金	88,675	94,025
敷金及び保証金	6,381	6,415
長期前払費用	182,895	184,249
破産更生債権等	23,062	23,062
貸倒引当金	△20,303	△20,303
投資その他の資産合計	281,291	288,388
固定資産合計	523,740	616,157
資産合計	773,631	929,596
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,759	2,759
未払金	46,537	45,219
未払費用	55,647	51,542
前受金	24,160	23,571
前受収益	33,951	36,173
未払法人税等	1,240	620
その他	2,040	3,000
流動負債合計	166,336	162,886
固定負債		
長期前受収益	233,916	229,059
繰延税金負債	100	210
退職給付に係る負債	124,695	141,216
長期預り保証金	44,222	65,728
固定負債合計	402,934	436,215
負債合計	569,270	599,102

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,105,524	3,230,542
資本剰余金	1,754,370	1,876,146
利益剰余金	△4,174,838	△4,298,503
株主資本合計	685,055	808,184
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	228	477
為替換算調整勘定	△484,142	△493,628
その他の包括利益累計額合計	△483,914	△493,151
新株予約権	—	12,347
非支配株主持分	3,219	3,112
純資産合計	204,361	330,493
負債純資産合計	773,631	929,596

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	307,883	448,070
売上原価	99,851	128,394
売上総利益	208,031	319,676
販売費及び一般管理費	374,605	455,264
営業損失(△)	△166,574	△135,588
営業外収益		
受取利息	2,811	2,840
為替差益	—	9,774
その他	2,176	88
営業外収益合計	4,988	12,704
営業外費用		
支払利息	1,234	1,770
為替差損	4,498	—
営業外費用合計	5,733	1,770
経常損失(△)	△167,319	△124,654
特別利益		
固定資産売却益	339	99
新株予約権戻入益	5,680	—
特別利益合計	6,020	99
税金等調整前四半期純損失(△)	△161,299	△124,555
法人税、住民税及び事業税	18,467	2,366
法人税等合計	18,467	2,366
四半期純損失(△)	△179,766	△126,921
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,048	△3,256
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△173,718	△123,665



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純損失(△)	△179,766	△126,921
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	249
為替換算調整勘定	1,507	△9,577
その他の包括利益合計	1,526	△9,328
四半期包括利益	△178,239	△136,250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△171,392	△132,902
非支配株主に係る四半期包括利益	△6,847	△3,347

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△161,299	△124,555
減価償却費	7,561	2,349
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△105	△29
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	16,198	12,492
株式報酬費用	—	3,841
受取利息及び受取配当金	△2,811	△2,840
支払利息	1,234	1,770
有形固定資産売却損益(△は益)	△339	△99
新株予約権戻入益	△5,680	—
売上債権の増減額(△は増加)	3,751	2,619
前払費用の増減額(△は増加)	1,061	7,017
長期前払費用の増減額(△は増加)	△166,585	1,096
前受金の増減額(△は減少)	△13,121	△3,230
長期前受収益の増減額(△は減少)	156,584	△13,206
その他	△64,434	△2,445
小計	△227,985	△115,219
利息及び配当金の受取額	395	229
利息の支払額	△560	—
法人税等の還付額	125	90
法人税等の支払額	△19,138	△3,011
営業活動によるキャッシュ・フロー	△247,162	△117,911
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,286	△703
有形固定資産の売却による収入	387	101
無形固定資産の取得による支出	△96,011	△83,061
その他	19	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△98,890	△83,663
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
株式の発行による収入	—	250,035
新株予約権の発行による収入	—	8,506
非支配株主からの払込みによる収入	107,800	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	107,800	258,541
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,488	383
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△240,740	57,350
現金及び現金同等物の期首残高	558,138	154,646
現金及び現金同等物の四半期末残高	317,397	211,996

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）は、前連結会計年度において営業損失260,912千円及び親会社株主に帰属する当期純損失361,058千円を計上しております。また、当第2四半期連結累計期間において売上高が前年同四半期に比べて45.5%増加し、448,070千円となったものの、営業損失135,588千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失123,665千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早期に解消又は改善すべく、以下の対応策を実施してまいります。

まず、スマートフォンアプリ事業においてライセンスを獲得したゲームアプリ「Arcane（アーケイン）」及び、自社グループ開発のゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」のサービスを提供しております。また、ゲームアプリ「FOX-Flame Of Xenocide-（フォックス）」のライセンスを獲得し、提供準備を進めております。さらに、自社グループ開発のPCオンラインゲーム「Rappelz（ラペルズ）」を題材としたゲームアプリ及び、他社RPGゲーム「Immortal Warrior（日本リリース名：エターナルヒーロー）」のMMORPG版の早期開発を目指します。これらにより、提供するゲームアプリを増やし、スマートフォンアプリ事業の収益化に向けて注力してまいります。

資金繰りににつきましては、第1四半期連結会計期間に第三者割当による株式及び新株予約権を発行し、当面の事業資金として258,541千円を調達いたしました。

以上の施策を実施するとともに、今後も引続き有効と考えられる施策については、積極的に実施してまいります。

しかしながら、これらの改善策を実施してもなお、今後の売上高及び利益の回復は、スマートフォン向けアプリの開発の進捗状況、市場投入の時期、市場での競争激化による環境の変化等に左右されることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当社グループの四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年4月13日付で、Oakキャピタル(株)及び菊川 暁から第三者割当増資の払込みを受けました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が125,017千円、資本準備金が125,017千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,230,542千円、資本準備金が1,370,110千円となっております。

## (セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	124,751	183,131	307,883	—	307,883
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	16,600	32,869	49,470	△49,470	—
計	141,352	216,001	357,353	△49,470	307,883
セグメント損失(△)	△86,483	△77,452	△163,935	△2,638	△166,574

(注) 1. セグメント損失の調整額△2,638千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	27,928	420,142	448,070	—	448,070
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	11,171	21,312	32,484	△32,484	—
計	39,099	441,455	480,554	△32,484	448,070
セグメント損失(△)	△99,950	△35,531	△135,481	△106	△135,588

(注) 1. セグメント損失の調整額△106千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 3. その他

## 継続企業の前提に関する重要事象等

当社及び連結子会社(以下、「当社グループ」という。)は、前連結会計年度において営業損失260,912千円及び親会社株主に帰属する当期純損失361,058千円を計上しております。また、当第2四半期連結累計期間において売上高が前年同四半期に比べて45.5%増加し、448,070千円となったものの、営業損失135,588千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失123,665千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を早期に解消又は改善すべく対応策に取り組んでおりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、継続企業の前提に関する事項及びその対応策に関しましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。